

藤田和夫氏 秩父宮記念学術賞受賞

服部 仁 (地質部)
Hitoshi HATTORI

第22回秩父宮記念学術賞が大阪市立大学名誉教授・帝塚山大学教授藤田和夫氏におくられた。表彰式及び祝賀パーティが昭和61年3月5日午後3時から東京丸の内の東京銀行協会 銀行倶楽部において秩父宮妃殿下の御臨席のもとに行われた。

受賞対象の業績は「日本の山地形成に関する地質学的・地形学的研究」である。藤田氏は昭和45-48及び54-57年度の8か年間にわたり地質調査所併任となり研究を分担された。その研究成果の一部5万分の1地質図幅「大阪西北部」「神戸」「須磨」及び「大阪西南部」並びに同地域地質研究報告も今回の受賞対象の業績に挙げられている。ちなみに「神戸」は発行後2年もたたない内に売り切れとなるほどの評判をとり地質調査所始まって以来のベストセラーを記録している。

今回の藤田氏の受賞に際して秩父宮記念学術賞の概要及び藤田氏の研究の真髄を紹介したい。

秩父宮記念学術賞

故秩父宮殿下が昭和8-23年の15年の間財団法人日本学術振興会(特殊法人日本学術振興会の前身)の総裁として我が国の学術振興のために多大の尽力をされた御事蹟を記念して制定された賞である。殿下がその御生涯を通じてスポーツに関心をお寄せになられ特に「山」に関しては御経験が豊かで御造詣も深かったことから財団法人秩父宮記念会の事業としてこの賞が制定された。

この賞は人文・社会又は自然科学を問わず「山」に関する科学で顕著な研究業績を挙げた者(研究者個人又は研究グループ)に対して授与される。その選考及び表彰等は関係学協会等からの推薦に基づき選考委員会(今回の委員長は和達清夫氏)の審査を経て特殊法人日本学術振興会が行っている。受賞の対象となる業績は「山」に関する学術上顕著な研究調査の業績で次の各条件を満たすものとされている。

- (1) 山に関する学術的研究調査であること。
- (2) 山における自らの実地研究調査活動を中心とするものであること。
- (3) 新しい知見又はデータの収集等により新領域の開拓又は研究の進展に貢献すると認められるものであ

ること。

- (4) 学術文献として公刊されていること。

なおこの賞は賞状 賞碑及び賞金からなるがこの学術賞の趣旨に賛同されている朝日新聞社からは副賞が贈呈されている。

地質学及び地形学関連の愛賞

- 第1回 「ネパール・ヒマラヤにおける学術的調査研究」
(昭和38年度) 京都大学生物誌研究会
- 第2回 「山に関する科学の進歩についての著しい貢献」
(昭和39年度) 長野県大町市立大町山岳博物館
- 特別賞 「カラコラム・ヒンズークシ・学術探検隊報告」
(昭和41年度) 京都大学生物誌研究会

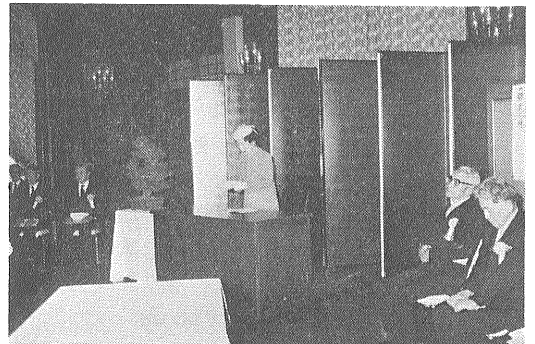


写真1 表彰式においてお祝いのことばを述べられる秩父宮妃殿下、右端は選考委員長の和達清夫氏



写真2 祝賀パーティ会場の展示資料の前で熱心に質問される秩父宮妃殿下と説明役の横浜国立大学教授太田陽子氏

第9回 「多年にわたる日本の山地地形に関する研究」

(昭和47年度) 辻村太郎

第10回 「ネパール・ヒマラヤの地質研究」

(昭和48年度) 北海道大学ヒマラヤ委員会
ネパール・ヒマラヤ地質研究会

第15回 「富士山の地質学的・岩石学的研究」

(昭和53年度) 津屋弘達

第18回 「日本の山地地形の研究」

(昭和56年度) 岡山俊雄

第19回 「日本アルプスおよびヒマラヤ山脈における

(昭和57年度) 氷河地形および地誌の研究」
五百沢智也

今回の受賞理由

藤田氏は「山はなぜ高くなったか」「山はいつ頃から高くなったか」という「山」に関する基本的な問題について真正面から取り組み 四十年余にわたるライ



写真3 5万分の1地質図幅について解説された 地質調査所長 垣見俊弘氏。妃殿下の左側は藤田和夫名誉教授御夫妻



写真4 5万分の1地質図幅と地域地質研究報告を御覧になる妃殿下

フワークの研究成果として数十篇の学術論文とその総決算に当たる「日本の山地形成論—地質学と地形学の間—」—蒼樹書房発行—にまとめられた。そして 数多くの新しい学説が展開され 国の内外から学術的に高い評価を受けていることが受賞の理由となり 日本地質学会及び日本地理学会から推薦を受けていた。

藤田氏の研究の特徴

まづ野外観察によって初期データを取り これを解析することによりモデルを構築・提唱し 再び野外に戻りモデルの検証を行うとともに 応用地質の方面にもその成果を役立てている。あくまでも フィールドワークを基礎としていることである。

具体的に 藤田氏の研究の特徴を挙げてみよう。

- 1) 六甲山地の隆起が約50万年前あたりから顕著になってきたことを 豊富な野外データに基づいて解明された。この点に関しては地域地質研究報告「大阪西北部」「神戸」「須磨」及び「大阪西南部」の四部作に詳細に述べられている。
- 2) 日本列島の生い立ちをグローバルな視点からとらえるため 世界各地において踏査した自分自身の研究結果に照らして 日本の特徴を浮かび上がらせて来た。
- 3) 研究の主要部である断層問題は 地震予知研究とも関連して世界から注目を集めている。その問題に関する国際的プロジェクト研究の中心的役割りを果たしている。
- 4) 断層問題は また応用地質学的に重要で 土石流地すべりなど自然災害とも深い関係がある。この面でも 「日本列島砂山論」—小学館(創造選書)発行—として警鐘をならすとともに 市街地の地盤沈下 六甲トンネル 明石海峡大橋 大阪新空港などの現場においても諸問題解決のため提言しておられる。
- 5) 藤田氏の業績は 単に学問上の問題だけではなく 社会問題にも多くの貢献をされているが それらはすべて個人研究の粋をこえたものであり 多くの協力者なくてはなしえなかったものである。常にその中心的な立場で研究されてこられたのは 藤田氏の研究内容・研究に取り組む姿勢や 人となりと人生観に魅せられた共同研究者や各界からの支援があつてのことであろう。

受賞された藤田氏に祝意を申し上げるとともに 地質学に係わるもののひとりとして 喜びを分かち合いたいと思う。掲載のステル写真は衣笠善博氏によって撮影された。